

# 太田一高生 お薦め本



水戸市の未来屋書店内に設置された県立太田一高のコーナーと、推薦本のポップを設置した代表生徒＝水戸市内原

## ビブリオバトルで紹介

県立太田一高(常陸太田市栄町、鈴木清隆校長)が実施した知的書評合戦「ビブリオバトル」について、水戸市内の書店がバトル決勝進出の本を中心に同校のコーナーを設置した。「社会とのつながり」を求めた学校と、「二つの達成感を感じてもらえれば」と考えた書店の思いが実現させた。生徒たちは思いがけない展開に驚きながらも、「うれしい」「自信になる」と目を輝かせる。

「県立太田一高 おすすめ 内原店(関在我店長)。同コーナーを設けた。校教員が相談に訪れたこのは、水戸市内原2丁目のモール型ショッピングセンター「イオンモール水戸内原」内の未来屋書店・水戸必要本を取り寄せ、書店

## 水戸の書店設置コーナー 自作ポップ取り付け

入り口の「一番目立つ場所」を企画。同店側から生徒たちに手書きのポップの制作も依頼した。

開設日の19日、生徒たちが同店を訪れ、自作のポップを取り付けた。同コーナーは夏休みの8月末までを予定している。

学年チャンプ本の栗田颯姫さん(16)は「書店にコーナーができて、まさかのこのでびっくりしている。今回の経験で少し自信が付いてきていて、発表なども頑張ろうと思っている」と笑顔。オーディエンス賞を受賞した福原瑞菜さん(16)は「推理小説を好きになったきっかけの本で、伝えたいことがちゃんと伝わったことと選ばれたと思うのでうれしい」と話した。

ビブリオバトルは、自分が気に入った本を紹介し合う知的書評合戦。本年度は初めて1年生が全員参加。4月に1年生153人が、違うクラスの5人とグループを作り、1人5分の持ち時間で本を紹介し合った。参加者全員が推薦本の魅力を紹介する発表者になるのは極めて珍しい取り組み。生きた紹介をするために原稿は用意せず、あらずじや魅力を表す一言、その本

との関わり、お薦めポイントなどを発表。発表に関するディスカッションも行う、一番読みたくなった本に投票してチャンプ本を決めた。5月には31冊で準決勝、さらに6冊による決勝戦で学年チャンプ本を決めた。同店のコーナーには決勝進出の6冊の他にも準決勝の本もできるだけ用意してコーナーに収めた。

水戸内原店でも初の試みで、関店長は「学生さんたちが心を込めて選んだ本を多くの手に取ってもらえれば」と応援する。

今回のビブリオバトルは同校が一丸となって推進する探究的な学びの一環。自分の言葉だけで本のおもしろさを伝える難しさなどを通して思考力や判断力、表現力の向上を図り、傾聴力や受容力を高めることで、他者の主体性も尊重しながら主体的に活動し、学んでいくプロセスを体験した。

鈴木校長は「地域とのつながりを大切に考えているので、校内の活動が街中の書店に広がったことがうれしい。校内で得られなかった気付きや発見、将来を考えるきっかけになれば」と期待した。

(飯田勉)